

2018-07-13(金)

シェア自転車を使って出掛ける

電動アシスト付自転車に乗ってみたかったのと、自転車が壊れたので日常的にシェア自転車を利用できないかと思って、使ってみた。

20年以上乗っていた自転車の、右のブレーキが壊れたので修理してもらった。そしたら次の日に、今度は後ろのタイヤがパンクしたので、さすがにもうダメだと思って手放す決意をした。休日、旦那さんに地元の観光農園で開催するマルシェに行きたい、と言ったらシェア自転車で行ってみようということになった。

シェア自転車は、設置場所(サイクルポート)から直接自転車を借りて、使った後は自分でまた設置場所に戻すというシステムになっている。サイクルポートは基本的に無人で、利用登録した上でクレジットカードなどで支払う。都内の自治体では、千代田、中央、港、新宿、文京、江東、品川、大田、渋谷の9区と練馬区で社会実験としてシェア自転車サービスが提供されている。

私の住んでいる場所は練馬区の実験区域で、家から徒歩7分くらいの所にサイクルポートがある。まずは[HPで会員登録](#)をした。そして家を出る前に会員サイトから利用予約して、パスコードの発行を受ける。これが鍵の代わりになる。まず、自転車のサドルが高かったので低くした。電動アシストの使い方が分からないけど、電源は分かかったのでオンにしてモード設定をオートマチックにして走った。利用料金は1回利用の場合、最初の30分は150円(税抜)で、その後30分ごとに100円(税抜)だった。

旦那さんはもともと自転車を持っていないので、これまで2人で自転車で出掛けたことはない。1人1台自転車を持っていなくても、借りれば家族で自転車で出掛けられる。所有の代わりに“シェア”だと思っていたけど、電動アシスト付のシェア自転車は、時と場合によっては交通手段として車の代わりになるものかもしれない。



左:シェア自転車 / 右:観光農園のブルーベリー

著者: minima

アラフォー女子。グリーンコンシューマー東京ネット
会員。この連載をまとめた電子書籍
「[エコな買物がしたい](#)」がアマゾンにて販売中。